

伝える！ 国連の仕事

先進国の「ツケ」払わされているのは…

久しぶりに訪れた国際連合（国連）の加盟国で、根本がおおさんはとてもおどろいたそうです。前の訪問に比べ、あまりにも様子が変わっていたからです。アフリカにあるその国が変わったのは、なぜでしょうか。その変化には、私たちの暮らしがかかわっているといえます。速い国の人たを困らせているものは何なのか、考えてみましょう。



パリ協定

気候変動がまき起こすさまざまな問題の対策として、2015年に定められた国際的なルールです。「気候変動」とは、二酸化炭素やメタン、フロンなどの温室効果ガスが温暖化を招き、地球の気候を変えてしまうことをいいます。パリ協定は、平均気温の上昇について、18世紀に始まった産業革命より前に比べ「1.5度」にこえる目標を定めていました。しかし24年の世界の年間平均気温はすでに1.5度をこえて上昇しており、温室効果ガスの排出を大きく減らさなければなりません。

水にしずんでしまった南スーダンの大地

今、世界で一番新しい国はどこか、知っていますか。答えはアフリカにある南スーダン共和国です。半世紀(50年)にもわたる内戦を経て、2011年にスーダン共和国から独立しました。193

気候変動で学校に通えなくなる女の子

一方、南スーダンの南部は、干ばつという厳しい水不足に見まわられています。北部の洪水も南部の干ばつも、気候変動が関係しているといわれています。南スーダンの人々の生活は、温室効果ガスによって、日本をめぐむ先進国や中国・インド・ロシアといった大量の温室効果ガスを排出している国々のツケを払わされているのです。南スーダンでは、水くみやたき集めといった労働は、女性や女子が主で仕事とされています。気候変動のせいで、これまでの場所ではきれいな水やたきが手に入らず、より遠くまで歩いて行かねばなりません。そのため、時間がなくなり、女の子が学校に通えなくなる状況も生まれています。また、道が水中にしずんでいるところでは、水の中を移動するときにはハビやウニにおわれることも。さらに女性や女の子をねらった暴力の危険も高まっています。みなさんには、日本をおそう山火事や大雨だけでなく、南スーダ



女性や女の子のために声をあげる、南スーダンの女性活動家たちと根本さん(2023年)



①かつては陸地だった場所が、水にしずんでしまいました(左の写真とはほぼ同じ地域です)＝3月、南スーダン・ペンティウ 根本さん提供
②かわいた道を歩いて、たきぎを運ぶ女性たち＝2015年1月 UN Photo/JC McIlwaine



ねもとかおる 兵庫県出身。東京大学法学部卒、アメリカ・コロロンビア大学大学院修了。テレビ朝日のアナウンサー・記者などを経て、1996年から2011年末まで国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）で勤務。国連世界食糧計画（WFP）広報官、国連UNHCR協会事務局長としても働いた。フリージャーナリストの活動を経て、13年8月から現職。